

喫茶店を始めて2か月。私が想定していたよりもお客さんが来店せず、経営は苦しくなっていた。
経営維持をする方法を悩んでいた私に大学の友人が「楽してお金を稼ぐ方法がある」と教えてくれた
ので私は「援助交際」をすることに決めた。



正直、死ぬほどキモチワルイと思っていたことだったけど、お店をつぶしてしまうわけにはいかないか

「ほおー君が連絡くれたナツメちゃん！めちゃくちゃ可愛いねえ！とても美人だし！」
「……うも」



「しかもワシがお願いした通りマイクロビキニを着てきてくれるとはー」
「むほほwおぬしも好きじゃなw」

「あ、あの…えっと…お金…」

「あー大丈夫大丈夫ー終わったらさっちり、欲しいだけお金をあげるよー」

「ほ、ホントですか…？」

っ

「ワシら金だけは持つとるからなー心配せんでええぞー」

「ただ。しっかりやることをやってくれたらの？」

「…もちろん、よろしくお願いします。」



「それじゃ、さっそくビキニをすらして腕を
あげてくれんか？」



「うおー!!!のっ!!!ですか?」

（何やってんだろ私…こんなこと…
ホントは嫌なのになあ。）

（でも、喜んでもらわないと…お店がなく
なっちゃうから…）



「それじゃ今から本格的に始めるから、
しっかり楽しもうなあ！」

「…はい…よろしくお願いします。」



「ふほー！綺麗な黒髪じゃな…それに
いい匂いもする…たまらんなあ」

（うげ…キモチワル…）



「…あの…触るなら…早くしてもらえないで
しょうか…?」

「お？ナツメちゃんはもう我慢できんのか？」
「年頃の子だからの、性欲も溜まっとううて…」



「べ、別にそういうわけじゃないんですが…」

「なあにワシらの性欲に比べたらまだまだじゃけ、
そいじゃ失礼するゾ」



「…っ！ん…」
（ち、力強すぎ…！）

「うほーw柔らかくてそれでいてハリがある…！
若い子の肌じゃあー！」
「んゝするいのお！ワシも触りたいで！」
「待て待てワシがしっかり堪能してからじゃー！
ちよっと待っとれ」



「ん〜wたまらんのたまらんの!」
「色が白くて綺麗で…ワシ好みのおっぱいじゃい!」



(はしゃぎすぎたでしょこのおじさん…)

「どれどれ」

もみ♡

もみ♡

「あ…っちよ…っ」

（うわ…っよ…っちよっど痛い…っ）

「おいおいナツメちゃん痛がつとるんじゃないか？」



「なに？そうなんか？」

は...
は...
は...

もみ♡

もみ♡

「あ、いえ...その...大丈夫です...」

（ほんととは痛いけど...気分悪くさせたらダメだし）



「なんじゃと？ちよつと強めにやったんじゃが
ナツメちゃん、痛い方がすきなんじゃな？」

は…
は…

もみ♡

もみ♡

「はあ！？…じゃなかった。えっあ…は、はい…」
（ほんと最悪…痛いって言えばよかった…っ！）

「それにしても本当に綺麗じゃのお…大きさもちよう



もみ♡

もみ♡

ト…

「ありがとうございます。」

「乳首も綺麗なピンク色じゃあー!」

「感度はどうじゃ？」

「んっ！？あっ！」

おっ!!

（この人いきなり摘まむなんて…っ！）
（心の準備できてなかったから…声出ちゃった…）

「なんじゃあ？ナツメちゃん、乳首弄られるのが
好きなんか？」

「あいえ…そんなんじゃ…っんあ！」
「そうは言ってもえらい反応しよるやんけ！」



「ちが…ついきなりだったから…あ…!」
「隠さんでもええで!ワシら経験豊富や、
しっかり気持ちよくしたるから」

「ほれほれ、これはどうじゃ?」
「やっやだ…!摘まみながら…っ
引っ張らないで…!」

ギゅっ

ビュッ
ビュッ

ギゅっ

「あああっ！こりこりって……！しないで……！」
「これが気持ちええんやな？反応がさっきとえらい
違いや！」



「ほれほれ！こりこりっw」
「ふぁ……！そこばっか……ちめ……！」

「嫌がらんでもええ！好きなだけ気持ちよう
なったらええ！」

「ナツメちゃんのスケベなところもっと
ワシらみたいんじゃ！」

「ふあーあーだめ！だめ！きゅって…ええ！！
強くされたらあ…！！」
（やばい…このおじさん、おっぱい触るの
うまい…このままじゃ…）

はっ
はっ

ぎゅっ
ぎゅっ

びゅん
びゅん

ぎゅっ
ぎゅっ

「ふぁ！あああ！！ダメダメ！気持ちよく
なっちゃうー！！」

「なあってええで！ほらいけ！いきちらせえー！！」



「い、イク！ふぁあああああ——ッ——」

「ハア…ハア…」
（ああ…乳首だけで…っ初めてイっちゃった…）
「どうじゃナツメちゃん。気持ちよかったやろ？」

はっ
はっ

「…はい…っとても…お上手でした…っ」

「これで…お金もらえるんですか…？」

（そうだ、私は喫茶店の経営維持の為にこんなこと
しにきたんだ）

「ん？何を言っるとるんじゃナツメちゃん…？」

「え!？」
「え?え?待って!?!なんで!?!」

「本番もなしに終わるわけないじゃろ!」
「くそ!乳でイキおって!見てるこっちはもう
我慢の限界じゃ!」



「ちよ！ちよつと待ってください！
流石にこれは……！」

「なんじゃあ？ほな、お金は要らんって
ことやねんな？」



（そ…そんな…！？それじゃ喫茶店は！）
「そ、それは困ります…！」

「ほな、ちゃんとやることはやらんとな？」



「ここで終わったら…喫茶店がなくなっちゃう…
みんなの居場所が…」

「はあー気分悪…ほんじゃこれで終わっとくか」
「ごめんないおじさん…ちゃんと
やりますから…!」



「最初からそう言っといたらええねん!!」
（これも喫茶店の為…私が頑張れば…!!）

アッ
...

「精一杯…やらせていただきますから…っ」
「うむ。素直でよろしい。ほな…」
（みんなの為…!!）



「んぐ…っ！うあああああっ！」

はぁ…

ズズ…

ズズ…

ふああ…っ！すずすず…ってえ…！！
入ってくる！）



「ふざーいー!?」

はっ...

ヒッ
ヒッ
ヒッ

ヒッ
ヒッ
ヒッ

ギッ
ギッ
ギッ

「うおおお...！ナツメちゃんの中すごく
狭くてキチキチ！」
（は、入った入っちゃった...！全部っ
入っちゃったあ...！）

「が、我慢できん！動くぞナツメちゃん！」

「ふあ！？あつがつ！！？」
（く、苦しい……！！？太すぎて……！！ピストンされる
たびにオマンコめくれちゃってるみたい……！！）



「おっ!?!お……!?おんっ……」
(だめ…息ができな…っ!?)

「んおおおお最高じゃあ!若い子のオマンコは
最高じゃあ!」



「ま…ッ！…止まっ…！んおおー？」

「はあ…はあ…！…す…す…す…！
チン」が溶けそうじゃ…！」
（全然…っスピードが落ちない…！
おじさん…っす…！…！）



「かはっ!!!!はぁ!!あああ!!!!あッ!!!!
おじさ...っ!!!!激し...!!!!もっとうっくうッ!!」

あッ
あッ

あッ
あッ

「腰が...!!腰が止まんッ!!!!」



「ひぎいいい!?!ああああ……」

あ、あ、あ

あ、あ、あ

あ、あ、あ

あ、あ、あ

「ええぞ……ええぞナツメちゃん……!!
お前は最高じゃ……!!このまま出すぞ……!!」

「やあっ!! 待って!! ああああ!!?」

「ゴムつけとるから大丈夫じゃ! イくぞオラ!?!」
「ふあああ!?! またスピードが速くなったあ?!」



「おおあああ!?!イク!出すぞオ……!」



「んひい!イク!イツちやうづう!?!」

ビュル!!ビュルルル!!!

「んお!?!おっ!おお~~~~!!?!」



「あへええあ…っ…あ…っ」
（やば…っイっちゃった…おじさんの…
チンポで…っ）

はー

はー

ビク

ビク

どお…♡

「はあ…はあ…最高やでナツメちゃん…っ
ワシめっちゃ気持ちよかったで…！」
（やった…これで…終わり…！）

「おっと！ナツメちゃんワシのがまだやで？」
「ひっ!？」

（目の前にもう一人のおじさんのチンポが…!!?）
「ワシはマン」もええがフェラチオが好きで?
そのお口でシてもらおうか?」



「待ってください…!!? おじさんはさつき胸を…!!」
「アホか!? 乳だけで満足するわけないやろ…!!」

「そ…そんな…!!? □で…!!? 絶対無理…!!」



「イヤならええで。その代わりこの話は
なかったってコトでな」

「そーそんなーや、やりますー！やりますからー！！」

「文句ばっか言ったららお金貰われへんと
思っときやー！ほんじゃやれー！」
（お店…！お店の為だから…！！）



「んふ…っ！ぢゅぽっ…！」
（うげえ…っくさい…ッ！気持ち悪い…！）

「おおああゝあったかくて気持ちいいー！」
「ほお！絶景やのお！ワシはこのままで
見させてもらっわー！」



「ほらナツメちゃん!こっち向かんか」
「ちゅぽっ!ちゅ…ッ!」

ちゅぽっ

ちゅぽっ

ちゅぽっ
ちゅぽっ

(ちゅぽっ…ちゅぽっ…早く…早く…早く終わって…)(ミ)

「しっかりやらなお金あげへんぞ〜？」
「…！ちゅっ！ちゅぽ！すちゅ…！！」

「ほああああキモチイ〜！！」
「あああ…ナツメちゃんのフェラ見てたら
ワシ…っ！」



「もっかい!もっかいやらせてもらっぞら!」
「~~~~!!??!!??」

「このおじさん!またあ!」



「おお！？さつきより愛液出て滑りよくなっとる！！」

「んぶう！？んごー！！んぼぼっ！？」
「んやあ…っさつきより激し…！？ダメ！ダメエ！」
「はあ！はあ！！ナツメちゃん！！気持ちええ！！」
「ホンマ…！！こんな子中々おらんで！！最高じゃ！」



「ほああ！ナツメちゃん！そろそろ出そうや！
口の中に出すで！？」
（ん！？ほああ！！無茶苦茶にされて！もう…！）

「こっちもまたイクで！！しっかり受け止めて
くれや！」
（なんにも！かんがえられにや…！！…！？）



「ああああいくいく!ちゃんと飲むんやぞ!……!」
「もう一発!出るぞ!……!……!」



「んぶっ!!!ぼっ!!!ちゅっるる!!!」



「ハア!!ハア!!あ~~~~めっちゃ出たわい!!」
「ナツメちゃん名器すぎるわ……!ほんま……!」

「んぼ……っおぼ……♡」

「(精液の匂い……味……もうダメ……ッおかしくなる……♡)」



「…？ナツメちゃん？」
「放心しとるなあ。ええわい。まあでも…」

「まだイけるよなあ？」







数時間後。



「はあ…はあ…いやあナツメちゃんの性欲には
ワシらも驚きや」



「ほんまじゃ…なんて子や…若い子はすごいの！」

「おじさんたちも毎回すっごく濃いせーし出るし
お互い様でしょ?」



「はは、違うわ」「しかしとうとう、ゴム無くなってもうたで」

「もうゴムなんてしなくていいですよ？」

「なんじゃとー?」
「私、もっともっとえっちしたいから…」



「もっと気持ちよくしてくれるなら…
ゴムなしでいいですよ?♡」

「おお!もちろんじゃ!」
「今までと変わらん量と濃度の精子しっかり
出したるから!」



「ふああああ！生ちゃん……！入って……くりゅう……！❤」

「んおお！？これがナツメちゃんの
生ナカかあ……！！！！？」



「おッ！♥奥まで！きたあ！！♥」

「なんじゃこの…絡みつく感じ…！ワシのチンポを
受け入れてくれるような…！」
「入れただけでイってまいそうじゃ…！」



「んへあっ♡まだダメ♡ちゃんと満足させて
くださいっ♡」

「おお満足させたる！ホンキの生ハメセックスの
始まりじゃー！」



「ひぎい!!…あー!!…あー♡しゅじゅー!!
ナマチンポいい!!」

んっ♡

んっ♡

んっ♡

んっ♡

「熱くて硬くてえ♡解けちゃいそ♡」



「おお！そんなに締め付けたらチン」取れる！」

「んお♡もっしょーもっしょーズンズンっでえー……」



「ひぎい♡しゅーいー！子宮のさきっぱー♡
おじさんのチンポにキスされまくってる！♡」

「ダメダメイっちゃうー！♡イっちゃうのぉ♡♡」



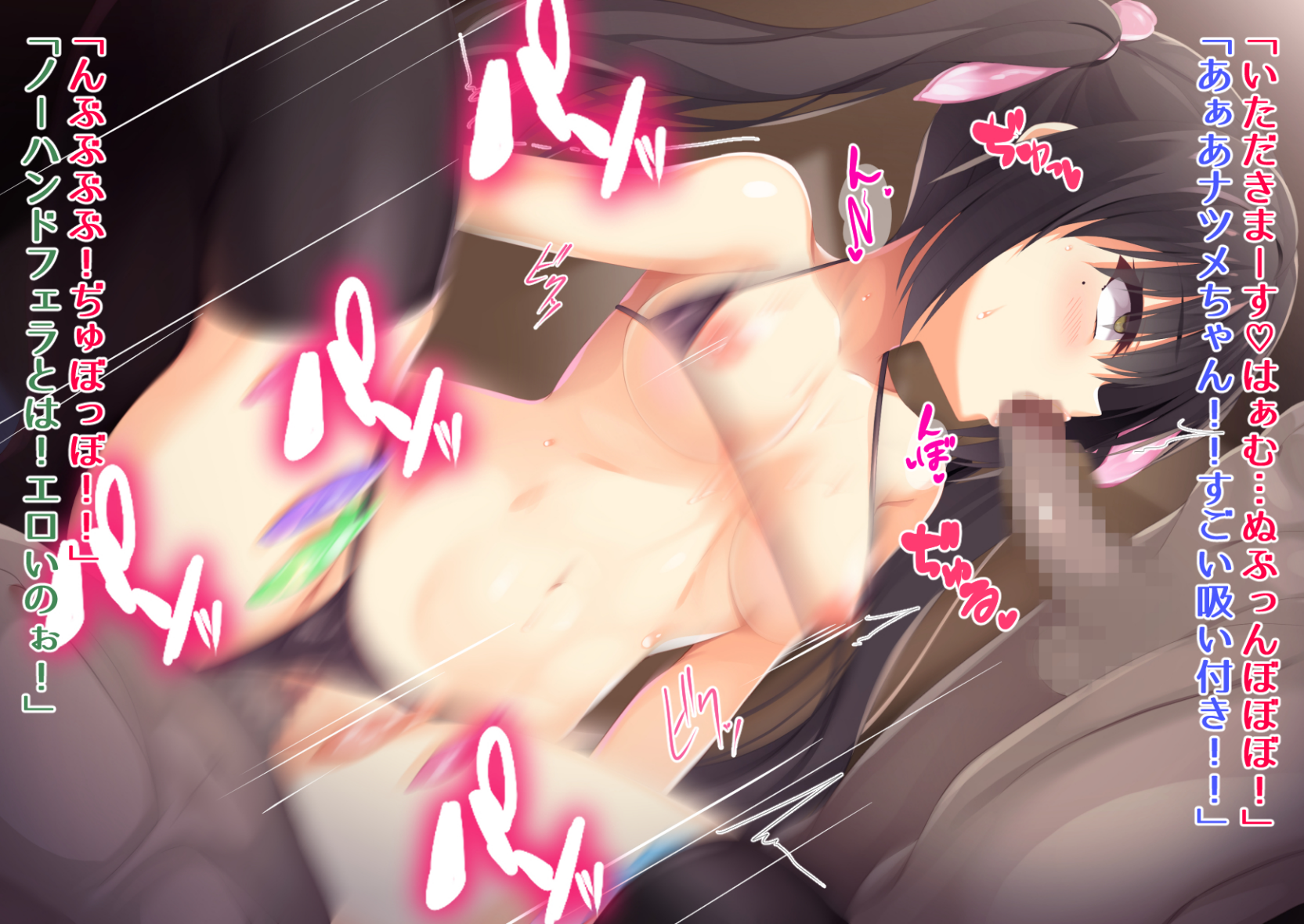
「ごっちも忘れてもらったら困るよナツメちゃん！」

「はぁ♥キタ！もう一本チンポキタ♥」



「いただきまーす♡はあむ…ぬふっんぽぽぽ!」
「あああナツメちゃん!—すごい吸い付き!—」

「んぷぷぷ!ちゅぽっぽ!」
「フーハンドフェラとは!エロいのお!」

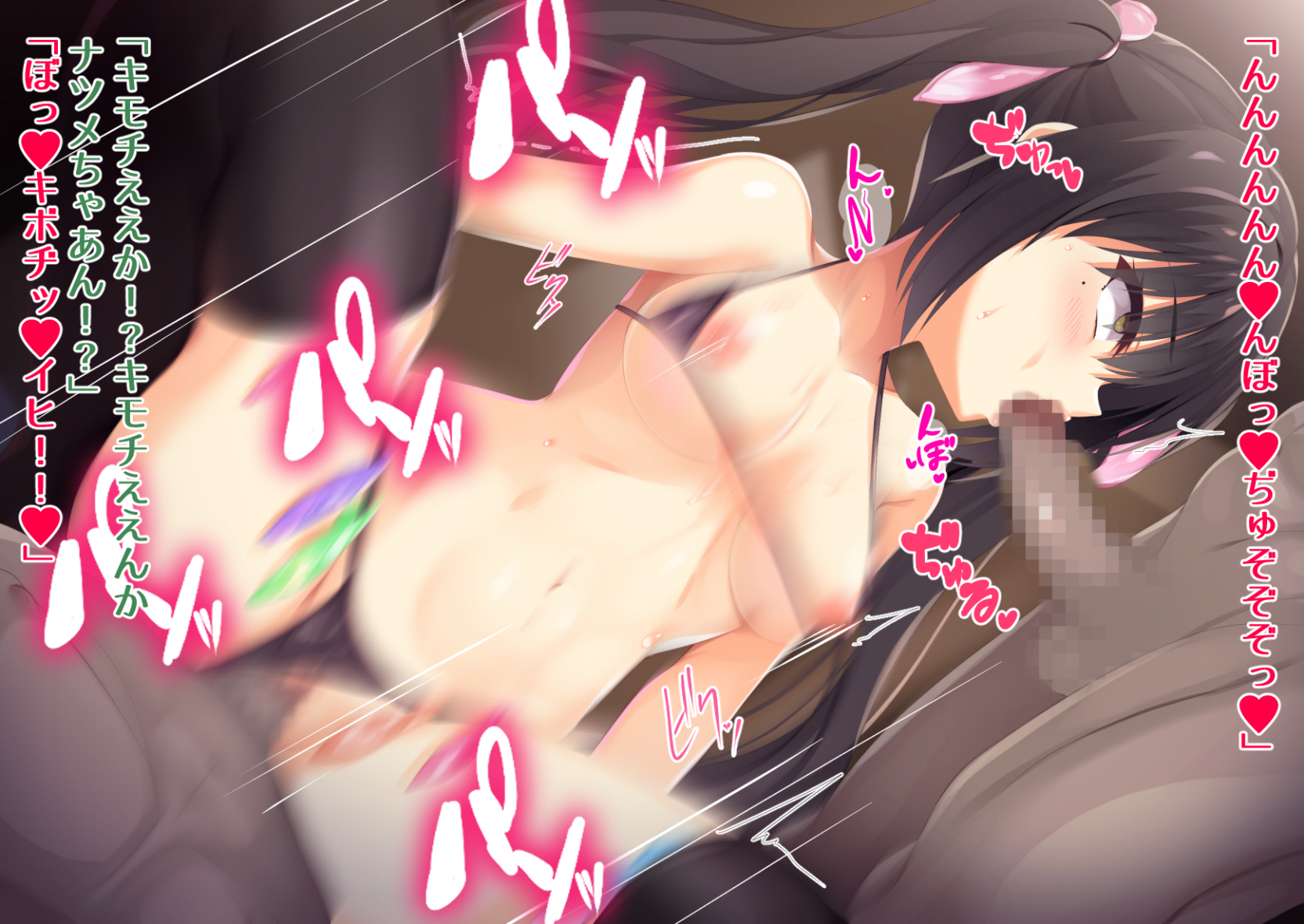


「んもっ♡んぼっ♡おいひっ♡ぢゅふっ♡！
ぢんぼっ♡ぢんぼおっ♡」

「ああ…エロい…エロすぎるナツメちゃん…っ！
「ワシも負けてはおれんのお！？」」

「んんんんん♡んぼっ♡ぢゅぞぞぞっ♡」

「キモチええか！？キモチええんか
ナツメちゃあん！？」
「ぼっ♡キボチッ♡イビ！！♡」



「ああああワシもうだめ！出る！！出る！！！」
「ナツメちゃん！手も使って！！！！」

「んん♡ぢゅぢゅぢゅぢゅ♡」





「出しきった…年甲斐もなくやりきったわい…」



「おお…ワシちゃんまでやるつもりはなかったが…」

「おっ♡おっ？♡」

（私…なんでこんなことやってたんだっけ…？）

「おーこりゃ壊れよったの…」
「そりゃワシら二人に夜通しハメられたら
こうなるわ…」



「お…っお…♥」
（いいや…なんでも…それより…もっと…）

「よっしゃナツメちゃん。記念に一枚撮るで」
「はい。チーズ！」



A detailed anime-style illustration of a young woman with long black hair and pink flower ornaments. She is wearing a black bikini and is lying down, making peace signs with both hands. Her body is adorned with various pink and purple decorative elements, including what appear to be petals or leaves. The background is dark and moody, with some light reflecting off her skin. The overall style is highly detailed and colorful.



END